

よこはた和幸事務所：〒650-0012 神戸市中央区北長狭通 4-1-12-8 階 TEL:078-335-0661 FAX:078-335-0662

決算議会のご報告

令和5年第3回定例市会

本会議および特別委員会にて会派を代表し質疑！

神戸のランドマークの設定など

建設的な「神戸の未来への投資」を提案！

9月14日から10月24日まで決算議会が開催されました。令和4年度一般会計決算・特別会計決算・企業会計決算について様々な議論が重ねられました。一般会計で、11億2,700万円の黒字達成や26年連続プライマリーバランスの黒字を確保しています。市税収入も過去最高となり、一時期に比べると財政状況は安定してきていると思います。物価高騰や少子高齢化でも社会保障費の増大という難題にも備えつつ、「人への投資」や「神戸の未来への投資」を進めていくべく建設的な提案をいたしました。

9月22日には「こうべ未来市議員団」を代表して質疑をいたしました。内容を抜粋しご報告いたします。



9月22日代表質疑

神戸のランドマークタワーについて

よこはた 神戸空港の国際化を視野に入れば、「神戸といえば」というランドマークが必要です。例えば、医療産業都市のサイエンスを活かして、科学未来館や自然史博物館など「すべて・遊べて・リピート」の多い施設の誘致をしてはどうか。大阪・京都・奈良にはない神戸夜市の常設化を新たなランドマークとすべき。

今西副市長 新たなランドマークが必要とご指摘でございます。ポートタワーや神戸アリーナ、神戸須磨シーワールドなど新たなランドマークとして、さらなる観光客が訪れるのではないかと考えています。また異人館、南京街、六甲山、有馬温泉などもそれぞれのエリアでのランドマークと考えています。

小原副市長 日本科学未来館では、未来の再生医療を疑似体験が出来る展示があり、大変参考になると考えています。ポートアイランドに立地している青少年科学館の活用を考えています。国内最大級のバイオメディカルクラスターへと発展した医療産業都市の取り組みの紹介をすることが重要なテーマと考えています。アバターロボットとITを活用して入院中の子供たちが遠隔で体験できるものや、AR技術を使って宇宙体験をできるような展示を考えています。インバウンドのニーズに答えられるように、またランドマークとなるような事業を進めて参りたいと考えています。

よこはたはこう考える 大阪にはUSJ、京都や奈良と言えば神社仏閣です。海や山や、神戸ビーフなど総合的に神戸は魅力あるランドマークになる資源はありますが、関西で存在感を出すためには、神戸にしかない博物館誘致や神戸夜市の常設化をしたいと考えます。

こどもの主体性を育む教育について

よこはた 今年4月に「こども基本法」が施行され、子供の意見反映が位置づけられました。子供の意見の反映をしっかりしてもらいたい。子供にとって自分の意見が施策に直接反映されるという自覚が必要です。自分で考え、自分の意見を持つことが必要と考えます。学校園で、その環境づくりやきっかけ作りをしていただきたい。

おひとりさまへの支援について

よこはた 65歳以上の高齢者でひとり暮らしをされる方は全国で743万人、神戸でも10万1,752名おられます。(2020年国勢調査)社会的に孤立しやすく、ひこきもりにも繋がってまいります。近くに頼る方がいない方々には、買い物支援や病院同行、施設入居の保証人、家財処理など支援は必要です。「この1冊あればおひとりさまでも安心」というような支援をパッケージ化していくべき。

久元市長 神戸市としても、合葬式墓地の設置や、遺贈寄付に関する協定の締結など取り組みをしてきました。ひとり暮らしの高齢者の皆様に対しては、様々な施策を展開していますが、バラバラ感があり、パッケージとして提供するということがご指摘の通りです。パッケージ化に向けて取り組みを進めていきたいと考えています。その際に、ひとり暮らしの高齢者の方々が孤立孤独から脱却するような視点が大事と考えています。

よこはたはこう考える 明日は我が身の状況がおひとりさまです。益々増加傾向にあり、神戸市は今までバラバラな福祉対策でしたが、早急にパッケージ化を考えております。民間や他都市でも、生前に葬儀会社と契約し予約した方へのサービスや、行政にかかりつけ医や緊急連絡先などの登録制度などの施策も出ていますので前へ進めていきたいと考えます。

教育長 学校園におきまして、子どもの権利に関する条約およびこども基本法の趣旨を踏まえて、子供達の意見を学校活動に反映させるとともに、自らの意見が取り入れられることによって、自己肯定感を高め、達成感を味わうことは重要であると認識しています。学校園におきまして、子供達が自ら考え、話し合っ、主体性を育む取り組みを推進していきたいと考えています。

よこはたはこう考える 教育行政は、教育委員会が担っています。しかし、こども基本法を機にこども家庭局や市長室など、縦割り行政でなく、横断的のものが必要と考えます。まだまだ、大人に従うべきという風潮もありますので一歩踏み込んだ施策をすべきと考えます。また学校だけでなく家庭でも、子供自ら考え、意見を持つように仕向けていくことも大事と考えます。

# 特別委員会での質疑

私の担当は、行財政局・市長室と企画調整局でした。質疑の内容を抜粋してご報告いたします。



9月26日決算質疑

## 行財政局・市長室

### 迎賓館の設置について

**よこはた** 国際都市である神戸市には、各国から訪神された賓客を迎える迎賓館がありません。現在は市役所や市内ホテルでレセプションを行っています。さらなる国際交流を進展すべく迎賓館的な役割が大事です。公館等を設けてもらいたい。

**市長室長** 賓客については、表敬は基本的に神戸市役所で行っています。レセプションは、先方の意向や行程などからホテルで行っています。国際交流から迎賓館は有効ですが、神戸クラブや北野界限には資する施設もあり民間とも相談したい。

**よこはたはこう考える** 国際都市として、迎賓館は必要と考えます。現状では市自体が整備する予算はないのですが、相樂園など民間との調整を図ればと考えます。

### 総領事館等との交流について

**よこはた** インドネシア総領事が交代されることになりました。総領事館は大阪市内ですが、公邸は神戸市にあります。しかし、交流はほとんど為されていないと伺いました。インドネシアだけでなく神戸市内に総領事や名誉領事館があります。公邸がある領事館含めて積極的に交流を図るべき。

**国際部長** 総領事から相談を受けて、医療産業都市や水素関連施設への見学や市内大学生とのマッチングなど行っています。港湾局ではパナマ、経済観光局ではドイツやベトナムなど交流を図っています。さらに国際交流を進めて参りたい。

**よこはたはこう考える** 神戸にはパナマと韓国が総領事館を設置しておられます。震災以降多くの国の総領事館は大阪へ移りました。神戸空港の国際化を視野に、総領事館の誘致をすべきと考えます。また各国の名誉総領事館も多く、積極的に交流を図りたい。

### 公有財産の総点検について

**よこはた** 神戸市では、不動産、有価証券など保有をしています。当然のことながら、適切に管理をしていると思うが、中には取得経緯が不明なもの、市が持つべきか理解しにくいものがあります。市民に説明しにくいと考えます。経緯を含めて総点検をすべきである。

**副局長** 毎年、自主監査を行い、現金・物品など点検しています。今年よこはた委員のご指摘を受けて取得経緯も含め点検すべく通知をしたところです。

**よこはたはこう考える** 高度成長期に取得した株が存在し、取得経緯が不明なものがあります。神戸市民の共通の財産です。全面公開することが大事だと考えます。

# 市政報告会のご案内

と き： **11月26日(日)**

午後2時00分～(1時間程度)

どなたでも  
ご参加  
いただけます

ところ： **センタープラザ西館6階9号室**

決算議会での発言や議論をさらに詳しく、皆さまに直接ご報告させていただきます。お誘いあわせのうえ、ぜひご参集くださいませ。

# 企画調整局

## シンクタンク・都市政策研究の推進について

**よこはた** 神戸市の中長期的な課題やビジョンを研究しているシンクタンクは戦略的に活用すべきだと考えます。人数・規模を含めて、さらに強くしていくべき。

**局長** 2050年頃を見据えた都市像と課題解決を整理する目的で、令和3年に、都市研究を神戸大学の武田理事長はじめ4人でアドバイザリーボードを設けています。具体的には統計資料を踏まえた議論をしています。気候変動に適した都市のシミュレーションや少子高齢化における地域コミュニティの在り方など中期的な将来像を議論しています。

**よこはたはこう考える** シンクタンクは必要であり、そのソフトハード含めて強化したい。特に人口減少に対する政策の展開には役に立たせたいと考えます。また神戸には約20の大学があり、連携強化で施策の発掘に取り組むべきと考えます。

## 指定都市市長会会長としての取り組みと成果について

**よこはた** 指定都市市長会の会長に、昨年より久元市長が就任しました。新型コロナウイルス感染症対策の際に、指定都市の権限は限定的でした。交付金についても都道府県に事務が集中して遅延が遅れる事象が多くあった。権限委譲の実現に向けて一層の働きかけをすべき。

**局長** 昨年4月に神戸市長が会長として就任しています。国民の22%の人口を有しているのが指定都市です。現場を知る都市部への権限移譲について、実現に向けて活動をしています。

**よこはたはこう考える** 神戸市など指定都市への権限委譲はなかなか進んでいません。地方分権も併せて進めていくべきで、議会側も、指定都市の議員同士の繋がりを強化し、国への要望をしたいと考えます。

## 神戸未来医療構想について

**よこはた** 医療産業都市のこれからの10年後20年後の将来像を検討される中、医工融合は非常に重要と考える。神戸未来医療構想をさらに進めていただきたい。

**産学連携推進部長** 神戸未来医療構想は、産学連携で地域専門人材の育成等を支援いたします。内閣府の地方大学・地域産業創生交付金事業に採択されたものです。ポートアイランドの神戸大学医学部を実証改良の拠点として活動しています。医療従事者と工学開発企業がワンチームとなって研究開発をしています。具体的には国産手術支援ロボット「ひのとり」など研究開発をしておりさらに前へ進めたい。

**よこはたはこう考える** 令和5年4月には神戸大学院で医療創成工学を創設し、令和7年には学部の開設も目指しています。土壌は揃いました。医工融合で機器の開発を推進し、医療産業都市を強くすることで神戸の産業を強くしたいと考えます。

## 医療産業都市の認知向上について

**よこはた** 医療産業都市について、スパコンなど有能なものも出てきています。市民認知が低いと考えます。特に、小中学生などにより早い段階で魅力を発信してもらいたい。

**医療産業担当局長** 神戸の子供たちに魅力を伝え、興味や関心を持ってもらうことが、ひいては理科、理系の人材育成につながる。神戸で機器開発や研究する人材を育てていきたいと考えています。スパコン、IPS細胞、など有名な例もあり、小中学校への出前授業や親子向けオンライン授業動画作成や、中学生への副読本などを通じて周知したい。

**よこはたはこう考える** 医療産業都市の知名度は低い。国内最大級のメディカルクラスターですので、神戸空港の国際化を見据え、さら発展させていきたい。あらゆる場面を通じて市民還元したいと考えます。